ISSN 1910—2396

野鳥だより

—北海道—

第102号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　平成7年12月21日

オオタカ　'86. 12. 30　三笠市　撮影者　神田健男

〒046　余市郡余市町黒川町467－6

もくじ

私の探鳥地（31）都市近郊の森と水辺－西岡水源池－
山田　三夫 …… 2
かわかぜに揺れて…志寸川カワセミの子育て
越後　　弘 …… 3
中野高明先生に捧げる……（幹事）渡辺　俊夫 …… 5
誌上写真展・平成７年度 …… 6
探鳥会ほうこく …… 8
探鳥会案内 …… 11
鳥民だより・会費の納入についてお願い（他）…… 12
会員名簿（平成７年10月31日現在届出分）…… 12

私の探鳥地（31）

都市近郊の森と水辺－西岡水源池－

山　田　三　夫

西岡水源池が公園として開放される以前の1979年から鳥の観察をしています。ということは私の鳥とのつきあいはここから始まったということです。家からそう遠くないところにこんなすばらしいフィールドを持てたのは幸運でした。1982年からやはり水源池で鳥を見ている諸橋淳氏の記録を併せ、今までに130種をこえる鳥類が観察記録されています。

ほとんどは札幌周辺の森林でのリストと同じです。しかし旧水源池を中心に、湿原、流水など変化に富んだ水辺の環境があるために水辺に関わる鳥が比較的多く観察されています。ガンカモ科はもちろんワシタカ科でもミサゴが時々観察されるなど独特の鳥類相を呈しており、特に春と秋の渡りの季節には目が離せません。

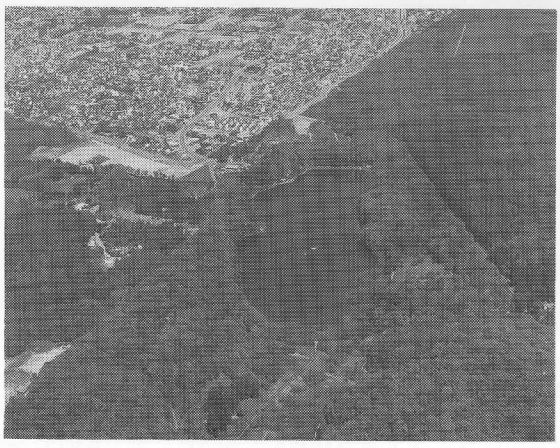
このように西岡水源池の自然を考える時には「水辺」が大きなキーワードになりそうです。カイツブリ科２種サギ科１種、ガンカモ科14種、クイナ科３種、シギ科４種、ヒレアシシギ科１種、カモメ科１種、カワセミ科３種、セキレイ科４種などなど全体の25%近くが水辺があってこそやってくる鳥でしめられているのがわかります。

1989年には環境庁が選定した「**ふるさと生きものの里**」にも指定されました。ヘイケボタルの道内有数の生息地としても知られ、トンボについては平塚和弘氏の報告によると40種が記録され、これは単一湖沼としては道内で第一位だということです。さまざまな生きものがいるということは複雑な自然環境があるということです。このような多様な水辺が森林とセットされたかたち、170万人都市のすぐ近くにあるというのは、なんと感動的なことでしょうか。いつまでも大切にしたいと思うのです。

しかし都市周辺の自然は、いつも危機にさらされています。この10年間で２度もの開発計画が持ち上がり、その都度「反対」であることを行政側に理解してもらいましたが「なぜなのだろう」という気持ちはなかなか拭いきれません。

さて冬の西岡ですが、もう十年以上前から給餌台を設置しています。常連に混じってミヤマホオジロもやってきたりします。ぜひ一度お訪ねください。

〒062　札幌市豊平区西岡１条６丁目３－７



「空から見た西岡水源池」

かわかぜに揺れて…

－志寸川カワセミの子育て－

越　後　　弘

となり町の新十津川町の志寸川で、カワセミを見続けてから6年になりますが、いつも中途半端で一年をとおしての観察はありませんでした。空知地方もご多分にもれず5月から7月にかけては、森林や草原の鳥たちのオンパレードで、ついあちこちに気が移りがちで一種類の鳥をじっくり見ていることができないのです。

でも、3年前に仲間8人と、チゴハヤブサのヒナの誕生から巣立ちまで3ケ月通い詰めて、撮りためたビデオテープを15分ほどに編集した、楽しい経験を思いだして今年は思い切ってカワセミの営巣記録に挑戦してみることにしました。

志寸川には、例年4月10日頃にカワセミはやって来ます。4月はじめに見た年もありましたので、本当はもう少し早くやって来ているのかも知れません。でもこのころは非常に警戒心が強く、河畔林の中に隠れていることが多く、あまり鳴かないのでその姿をなかなか捉えられません。見つけても逆光だったり、芽吹き出した葉に隠れてオスかメスかの判定もむずかしく苦労をします。

どうやらオスがメスよりひと足先にやって来るようですが、気がつくといつの間にかペアでいることが多く、メスを巡ってのオスどうしの争いも見たことがないので繁殖地に着いてからペアになるのでなく、越冬地ですでに決まったペアがやって来るように思われます。

一週間もすると崖に巣穴を掘り始めます。今年のペアは同時に3ケ所の巣穴を掘っていました。これは掘り進む途中で、地中の石や木の根にぶつかった場合や、更に良い条件の場所を見つけ出した時にとる行動と思われます。最初は崖におもいっきりくちばしで体当りをして、足場を作ります。そして大きなくちばしで土を噛み頭を強く左右に振って空中に放り、近くの枝にくちばしをなすりつけて土を落とします。オスメス交替で巣穴に入って土を外に出しますが、ある程度掘り進むと後ずさりをして土を掻き出します。粘土質の中に砂礫の多い崖は雪解け水をたっぷり含み1メートル近く掘り終えるのに2週間ほどかかります。巣造りの作業中に、巣穴の近くの枝で何度も求愛給餌と交尾を繰り返し、やがて3週間近くの抱卵に入ります。巣の中の相手には魚の頭を前に向けてくちばしではさみ、あたりを警戒して、必ず鳴き交わしてから巣穴に運びます。抱卵の交替の時も繰り返し「チッィチィーッ、チッチィーッ」と鳴き交わしをするのですぐわかります。

ときおり上空をハクチョウやヒシクイの家族が隊列を組んで北へ向かうのが見えます。そしてヒバリやアオジのさえずりが一段と賑やかになる頃、巣穴に運ぶ餌が小さな魚に変わってヒナが孵化したことを知ることができます。育雛中の親鳥の献身さはどの鳥もみな同じで、あたりが暗くなる迄飛び回ります。親が運び込む魚が少しずつ大きくなりヒナの成長度合いを推測できます。

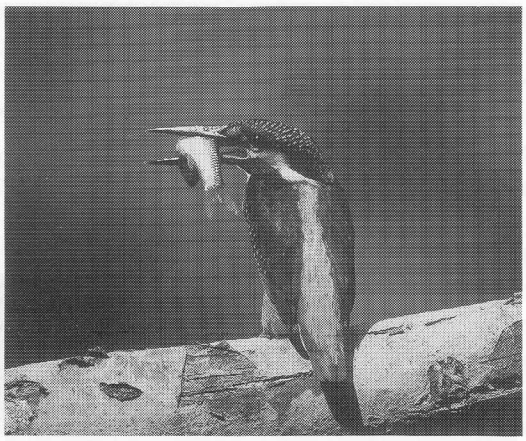
巣の中ではきっとヒナたちがピーピー鳴いているのでしょうが、増水した水音でかき消され耳には届きません。観察を始めた4月中頃は、時折小雪がちらつく日もありブラインドの中で吐く息が白い日が何日もありました。おまけに下流域なので悪臭とゴミには閉口しました。

カッコウののどかな歌にオオヨシキリが必死に反応する頃、ヒナは相当大きくなっているのか、親がエサを運ぶ回数が少しずつ少なくなり、2回目の繁殖にとりかかります。最初の巣穴に時折エサを運びながら、少し離れた巣穴にも出入りします。旭川でもカワセミの2回の子育ての記録がありますが、安全性が高くて、エサも充分とれる場所ではこういうことが見られるそうです。

一方、親からなかなかエサがもらえなくなった最初に生まれたヒナは、空腹に耐えられず、つぎつぎと巣立ち始めます。孵化して1ケ月近くたっていました。巣立ちしたばかりのヒナの体色は、親に比べると全体に鈍い色で胸の部分のオレンジに黒っぽい斑点が混じり、くちばしの先の白が目立ちます。鳴き声はスズメのぐぜりに似た「ジュジュジュ」と鳴いているように聞こえます。雌雄の判断の決め手となるくちばしの下部の色は、良い角度にとまらないため、なかなかわかりません。

やがて、1年のうちで一度見られるチャンスがあるかどうかという、親の餌とりの特訓が始まります。

巣立ちして間もないヒナは、はじめ川岸の柳の中に潜んでいるらしく、親があちこち飛び回りながら給餌します。危険を避けるすべや、安全な場所を教わり、いよいよ魚を捕らえる練習をします。ここにいる川魚はウグイやクチボソの仲間が主で、川底をスコップで掘って溜まりを作り、ソーセージなどをいれておくと結構集まってきます。止まり木を具合良く設置すると、飛び込んでエサをとる様子が手にとるように見えます。3羽のヒナがつぎつぎとやってきては、水中の魚をじっとねらっていますが、飛び込む勇気が湧かない様子です。



ここで親鳥のとる行動には興味深いものがあります。親は水中に飛び込んでエサをとり、枝に叩き付けて飲み込む模範演技を見せます。そして、ためらっている若鳥に対して、くちばしと翼を大きく開けて威嚇し、お前もやってごらんと促します。尻込みするものや、仕方なく飛び込むものなどさまざまです。でもこの行動は私の観察ではたった一度だけでした。過去にも他の場所で見たことがありますが、翌日以降は見られませんでした。きっとこの日から、若鳥たちは自分でエサをとることを義務づけられるのでしょう。

はじめは下手くそで、エサをくわえなおす時に落とすことがたびたび目撃されました。好んで魚を叩き付ける枝の表面には、ウロコが大量にこびりついています。これでもかと、ボロボロになるまで叩きつけるかと思えば小魚などはくちばしで2、3回挟んだだけで飲み込んだりします。大きめの魚の時は、飲み込むのに難儀をしている様子がおかしく、時には、喉を魚が暴れながら胃袋に吸い込まれていくのには驚きました。ときおりどこからか、カワエビやアメンボなどを食わえてくることもありました。8月に入って二番子が加わり、エサ場は6羽のカワセミが飛び交う賑やかさになります。

以前、NHKのアカショウビンの出た番組で、水中に飛び込む瞬間の映像を見たときは、感動しました。試行錯誤の結果、川底を掘って長方形の水槽を埋め、その中にビデオカメラを入れることにしました。思いのほか、きれいに映りましたが、飛び込んだ瞬間は、早すぎてスローで再生してもカワセミの姿は分かりませんでした。でも、来年もう一度チャンスを狙うことにしました。

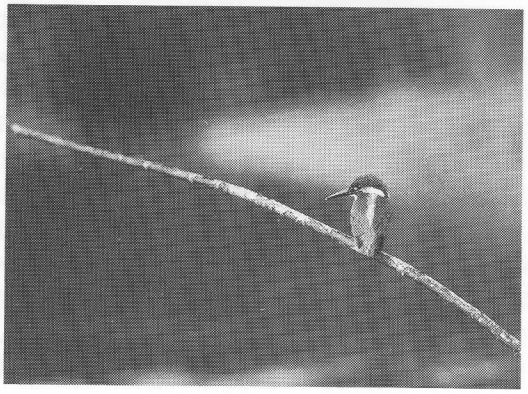
今年の観察で新たに確認できた事が、もう二つあります。雨の日の行動です。それまでは、朝から雨の降る日は、観察を休んでいましたし、途中で降り出した日は早々と機材を片付けて帰っていました。でも、雨の中でカワセミたちはどうしているのか気になり、8月の長雨の続いた日に出かけてみました。空知川の異常な増水で逆流した水でブラインドは水浸しになっていましたが、思ったとおり彼らは平気でやってきました。魚が移動して捕れないとみるや、アメンボやトンボを捕まえていました。しかし、このエサは食べにくいと見え、途中で放り投げたり、トンボは何度も出しては、また飲み込んでいました。味は魚とは比べものにならないのでしょう。

また、ヘルパーも確認されました。これは他の個体がヒナにエサを与えるのではなく、ひと月近く先に巣立ちした兄姉が、二番子に親の代わりに給餌するものです。ときどき魚を食わえて、どこかに飛び去るのを見て不思議に思っていましたが、ある日、ヒナが魚を食わえた若鳥にくちばしを大きく開けしつこく鳴きわめいていました。すると若鳥は魚を食わえなおし、ヒナに与えたのです。2回目撃しましたが、ヒナが力いっぱい食わえようとして、若鳥はくちばしを挟まれ、水中に落ちたこともありました。挟むのは相当な威力のようです。他の巣で育った個体が、エサ場に侵入したときは兄弟みんなで威嚇して、とうとう追い出してしまいました。9月になると、それぞれがテリトリーを求めてどこかに去り、めったに姿を見ることがなくなりました。

6ケ月の観察は、これまで知らなかった新鮮な驚きを与えてくれました。来春再び逢えるのを楽しみにして…。

－止まり木に止まった鳥たち－

アリスイ、キセキレイ、ベニマシコ、アカゲラ、ハクセキレイ、イソシギ、カワラヒワ、モズ



〒073　滝川市本町5丁目4－25 ☎(0125)24－2447

中野高明先生に捧げる

（幹事）　渡　辺　俊　夫

中野先生に初めてお目にかかったのは、私が野鳥に興味をもって間もない昭和40年５月でした。旧小樽労働会館で行われた野鳥の会小樽支部の例会の席です。

もちろん初参加です。出席者は私を含めて６人と少人数の会合で、特に議題もなく、フリートーキングの形で行われました。当時私は若さだけが取りえで、野鳥に関しては何の知識もない全くの初心者で、期待と不安が交錯しており、先輩諸氏の語る野鳥談義を無我夢中で聞いていたのを覚えています。

会も終り、先生に帰りのご挨拶をすると、「渡辺さんのような若い人が入会されると、会としては大変心強く会員数も増えると思います。お互いに頑張りましょう。」と優しくお声をかけてくださり、二次会へとお誘いいただきました。まさか初対面の私に声をかけてくれ、そのうえ二次会に誘ってくれるとは思ってもいませんでしたので、大きな感激でした。二次会ではさらに先生の豊富な野鳥経験と楽しいお話しを聞き、ますます野鳥に興味をもったのは申すまでもありません。

後列向かって右端が在りし日の中野高明先生

その後も、先生が学生時代に研究のため収集された数多くの貴重な鳥の剥製や昆虫の標本などを見せてくださったり、ご自宅のある中野植物園でマンツーマンでバードウォッチングの指導をしてくださいました。また、事ある毎に色々な自然についての助言もいただきました。このことが契機となり、私の人生の一ページに野鳥とのかかわりが付け加えられたのです。

以来30年の長いお付き合いになりますが、先生との色々な思い出が走馬燈のように脳裏に浮んで参ります。

本年８月28日、小樽支部のシギ・チドリを見る探鳥会が余市海岸で行われました。先生は小樽地区はシギ・チドリ類を見る機会が少ないので、参加者に間近かに見られるようにと、前日の夜からキャンプを張り、バンディングの用意をされたのです。テントでの睡眠ですから熟睡できるはずはありません。それでも先生は、私のことを気遣い優しく声をかけてくれるのです。自分を犠牲にしてまでも会員の喜ぶ姿を見て満足されている先生の厚い思いには本当に頭が下がります。

二週間後の張碓（はりうす）海岸アオバト探鳥会では、余市海岸同様、現地で早朝からバンディングに精をだされ、参加者の集まる時間には笑顔で私たちを出迎えてくださいました。アオバトについて最近の状況など、いつもと変りないおだやかな口調で話されておりました。私は用事がありましたので一足先に「先生、お先に失礼します。それではまた……よろしくお願いします。」普段と変らない気軽な挨拶をして別れました。

まさか、これが最後のお別れの言葉になろうとは……。

メガネの奥の柔和な瞳と、常に温顔で優しく語るお姿は、今でも私のそばにおられるような気がしてなりません。こうして今、追悼の原稿を書いていても先生の死が信じられないでいるのです。

先の余市海岸では二人きりで話す機会があり、朝食のおにぎりをパクつきながら、バンディングの話からはじまり、小樽支部の歴史、会員動向、支部報や探鳥会の苦労話と……。思えば先生は、ご自分のことを予期されていたのでしょうか？

人生は無常と申しますが、先生に突然逝かれてしまった今ほど、はかなさ、むなしさを痛感したことはありません。

命つきるまで野鳥を愛し、人に愛されまた数多くの教え子たちを教育者として世に送り出した先生の人生は、本当に幸せだったと思います。

先生が私に残してくれた数々のご厚情、ご指導、ご鞭撻に対し、深い感謝の念を捧げます。

どうぞ　やすらかにお眠りください。

〒047-01　小樽市新光４丁目14－４

平成7年度

誌上写真展

オジロワシ　新城　久

カワガラス　山田良造

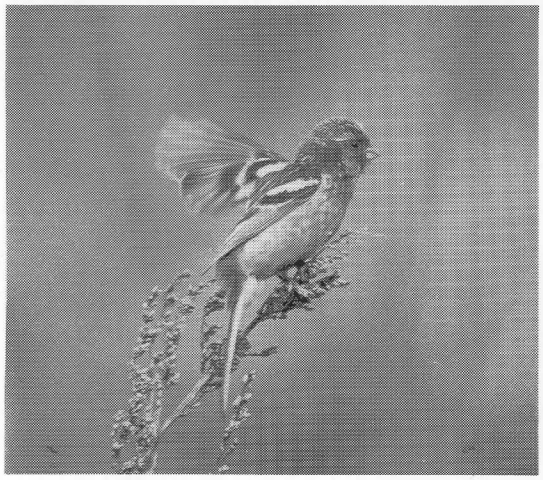
タンチョウ　石橋美津子

ソリハシセイタカシギ　佐藤幸典

カラシラサギ　渋谷信六

ゴジュウカラ　荻原俊男

キビタキ　佐藤　勇



ベニマシコ　富田寿一

アオバズク　石橋孝継

チュウサギ　小堀煌治

コジュリン（三沢市）　三船喜克

愛護する探鳥会に参加

（鵡川河口）

7．8．27

内田秀満

8月27日、鵡川河口にての探鳥会に当日幹事の道場氏とベテランの栗林氏に連れていって頂き、おかげで掛け替えのない自然に接することができました。

探鳥会には何度か参加させてもらいましたが、その度にいろいろと教えて頂き、ただただ感心、感嘆するばかりであります。今回もその通りで、一瞬のうちに飛んでいるツバメの背と腹のポイントを見極める〝ツバメ返し〟の早業を目の当りにして、大袈裟ではなく、超人的な能力を感じ、あたかもチュウヒの目を見た思いでした。

ところで、野鳥愛護会の主旨は「野鳥を通して自然保護思想を高める。」ということだそうで、まさに「愛護」という名称が当をえたものと思いました。探鳥会においても、みなさまの野鳥（自然）を愛護する気持ちが、ひしひしと感じられ、そのような愛護会を非常に羨ましく、また頼もしく思いました。私は、たまに山登りもするのですが、野鳥との出合いが、山での楽しみのひとつに加わりました。これからは登山も山岳愛護の精神で行なうつもりでおります。

さて、近年危機感からか、自然に触れ合うことが流行のように盛んに行われているように見えます。これは大変好ましいことだと思います。自然に親しむには、自然を知り、かわいがり、愛さねばなりません。それが自然を守ることになるのではないかと思います。

野鳥愛護会はそんな中で、誰もが参加でき、学ぶことができる極めて重要な、そして、指導的立場にある会であると感じました。今後とも、その大きな思想をもって会を運営し、本来あるべき自然環境になるよう努めて頂きたく思う次第であります。

今回も、ほんとうにお世話になりありがとうございました。

〒062　札幌市豊平区美園11条4丁目1－20

［記録された鳥］アオサギ、トビ、チュウヒ、ハヤブサ、コガモ、マガモ、カルガモ、トウネン、ウミネコ、オオセグロカモメ、シロカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、コサギ、ツミ、ツバメチドリ　以上23種

［参加者］高栗　勇、越智仁司、辻　正一、鈴木昭二、桝川　保・弘子、小野盛市、相木大嗣・孝子、加藤花子、中正憲佶・弘子、内田秀満、戸津高保・以知子、小野木弘司・幸子、栗林宏三、山田甚一・玲子、矢野玲子、板田孝弘、道場　優、佐藤幸典、久田伸一、関口健一、佐藤　実、羽田恭子、蒲澤鉄太郎・則子、福岡研也、佐藤正秀、柳沢信雄、山本次郎、山田良造、佐藤ひろみ、森田新一郎、永島良郎、佐山さつき、今泉秀吉、井上公雄、石橋和子　以上42名

［担当幹事］井上公雄、道場　優

鵡川探鳥会

7．9．10

石山小3年　鈴木森太郎

ぼくは鵡川に行くのがはじめてで、行くのを楽しみにしていました。

前の日、ぼくは鵡川に行ったら、どんな鳥が見られるかわくわくしていました。

探鳥会の日、はじめにミミカイツブリを見ました。でも遠かったので、よくわかりませんでした。さいしょはアカエリカイツブリだの、ハジロカイツブリだとか言っていたけれど、ベテランの人がさいごに「ミミカイツブリ」だと言いました。

次に牧草地を歩いて行くと馬がいました。うんこがいっぱいあって、さいしょはびっくりして、ふまないようにしようと思ったけど、何回かふんでしまいました。

牧草地の水たまりに、トウネンとコチドリがいました。トウネンとコチドリは見たことがあるけれど、いままで見た中で一番よく見られました。

それから川ぎしを歩いていると、アオアシシギとハマシギとトウネンとハクセキレイ、ムナグロがいました。ムナグロは太っていてずっしりと見えました。

アオアシシギは、青いあしがはっきり見えました。くちばしのそり上がっている所もはっきりわかりました。アオアシシギは前から見たかった鳥だったので、見られてうれしかったです。ハマシギは馬の足あとに、出たり入ったりしていたのがかわいかったです。

そこでおべんとうをたべました。おべんとうはおいしかったです。

プロミナに鳥をいれてもらったり、図かんを見せてくれたり、親切にしてくれてどうもありがとうございました。

•—•—•—•—•—•—•—•—•—•—•—•—•—•—•

先日は親子ともども、楽しい時間を過ごさせていただきました。いつも近間（ちかま）で鳥見を楽しんでいるので鵡川は新鮮でした。夫の鳥好きを押しつけたつもりはないのですが、息子たちに彼ら専用の双眼鏡を買ってから、外出する時は必ず持って…というような形で、兄弟が競って

鳥の名前を覚えています。図鑑で見ていた鳥を、実際見ることができた時の嬉しさは、初心者の特権とでも言うべきものですよね。そういう点で、今は丁度鳥見が楽しい時のようです。家族だけで見ている時とまたひと味違った探鳥会は、彼らの心に充分刺激的だったのではないかと思います。次は「プロミナーが欲しい」と言っていますから…。楽しい時間をありがとうございました。

（鈴木みどり）

〒005　札幌市南区石山１条２丁目８－８－210

［記録された鳥］ミミカイツブリ、ウミウ、アオサギ、トビ、ミサゴ、カルガモ、ムナグロ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、アオアシシギ、タシギ、トウネン、ハマシギ、ウズラシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、ハシボソガラス　以上26種

［参加者］石橋和子、板田孝弘、香川　稔、栗林宏三、小堀煌治、佐藤ひろみ、鈴木倫太郎・みどり・森太郎・岳二郎・あつ子・なお、武沢和義・佐知子、戸津高保・以知子、永島良郎、野坂英三、森　茂太・純子・林太郎、森田新一郎、山下　茂、山田良造　以上24名

［担当幹事］永島良郎、栗林宏三

宮島沼・鏡沼探鳥会

～雁満沼探鳥記～

7．10．15　　中　村　　茂

降る、降るといわれた雨も降らず、曇天であったにせよ、時折晴れ間ものぞく良好な探鳥日和。赤蜻蛉乱れ飛ぶ秋日の宮島沼に今年もまた雁達が集った。

探鳥会は午前十時から開始された。まずは宮島沼で雁ウオッチング。25,000を越える大群がのんびりと水上に漂い、さかんに鳴き交わしている。周囲ではカルガモたちが採餌に夢中である。上空には時折、ユリカモメが飛び交い、岸辺にはツルシギが佇む。不意に水中から姿を現したのはハジロカイツブリだ。目の赤さが遠方からでもはっきりと見てとれる。体色が不均一であるのは換羽中だからなのだろうか。こうして、私も心ゆくまで水鳥を堪能した。

正午すぎ、次の探鳥地、北村鏡沼へむかうため宮島沼を後にする。地元の雁研究家草野氏の情報により、往路カリガネを探して田んぼで再び雁ウオッチング。しかし、残念ながら、カリガネは発見できず、鏡沼へ移動することになった。

鏡沼では昼食をとりながらカモウオッチングとなり、カルガモ、ハシビロガモ等を観察する。幼鳥をひき連れて泳ぐカイツブリの姿は見ていてほほえましいものがあった。もうすぐ彼等も沼を去るのだろう。そうなると沼は初冬をむかえる。

今回、私は愛護会の探鳥会に初めて参加させていただいた。秋に宮島沼を訪れたのは本当に久し振りのことだったので、春とはまた違った水鳥達の装いを見ることができて楽しかった。

担当の富川氏をはじめ愛護会の皆さん、ありがとうございました。

〒003　白石区川北２条３丁目749－120

［記録された鳥］**宮島沼**：カイツブリ、ハジロカイツブリ、トビ、ヒシクイ、マガン、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ツルシギ、ユリカモメ、キジバト、アカゲラ、ヒバリ、モズ、シジュウカラ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、カケス、シメ、ハシブトガラス　以上31種

鏡沼：カイツブリ、ハイタカ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、キジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス　以上16種

［参加者］草野貞弘、田辺　至、香川　稔、柳沢千代子、松浦　哲、清水朋子、相木大嗣・孝子、永島良郎・トキ江、矢野昭二・玲子、升田隆夫・さゆり、富川　徹・まさる、佐藤ひろみ、首藤　敞、中村　茂、森田新一郎、伊東裕二、栗林宏三、戸津高保、井上公雄　以上24名

［担当幹事］富川　徹、井上公雄

野幌森林公園探鳥会

7．10．22　　岡　田　江　利

秋の北海道らしく、さわやかに晴れわたった10月22日の日曜日、野幌森林公園での探鳥会に参加させていただきました。その１ケ月程前に、主人の転勤に伴い東京から越してきたばかりでした。

以前からバードウオッチングに夫婦ともども興味があり、ドライブ先の蓼科や軽井沢などでは双眼鏡片手に鳥を探したりしていましたが、初心者の悲しさ。「スズメ」や「カラス」を、その視野に入れるのが精いっぱい。たまに「カワラヒワ」や「イカル」などを確認しようものなら、その興奮は数日も続くという具合のまことに他愛のないものでした。

ですから、最初から野幌森林公園入口で、「フクロウ」を見たときは、本当に言葉にならないほどの感動でした。まさに〝森の番人〟のように、高い木の上で悠然としており、やや眠たげな眼差しで虚空を見つめたり、毛繕い

をしたり…。肉眼で確かめ、双眼鏡で見、そして、大きな望遠鏡で更に観察させていただきました。

それから野鳥愛護会のみなさまについて、森の中へ入っていったわけですが、今思い出しても夢のようなひとときでした。というのも、こうして森へ入ってもいつもの私たちだと全くといって良いほど確認することの出来ない鳥を、ベテランの方たちが耳から、また鋭い視線からいち早く見つけ、懇切丁寧に教えてくださったからです。私どもが自分たちの目でみることの出来た鳥の数、「ミヤマカケス」や「ヤマゲラ」など実に10数種類にも上り、最後にチェックされた時点では、24種類ということでした。

鳥の数もさることながら、更に興味深く思えたことがありました。バードウオッチングというのは、鳥そのものを観察するだけではなく、鳥と樹木、そして、森との関係、ひいては人間の生活環境との関係へと大きく広がってゆくものではないかということです。

日曜日の野幌森林公園は、探鳥会だけではなく〝自然観察会〟や〝歩こう会〟そしてジョギングや自転車を楽しむ方たちでいっぱいでした。身近に自然を感じ、それを楽しむ北海道の方たちの生活は、まさに〝ゆとりある豊かな生活〟そのものに思えます。私たちもバードウオッチングを通して自然に親しみ、北海道での生活を思いきり楽しみたいものと願っております。

素敵な秋の一日を、本当にありがとうございました。

〒004　札幌市厚別区厚別北３条５丁目７－３

［記録された鳥］アカエリカイツブリ、トビ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、カケス、ハシブトガラス　以上24種

［参加者］犬飼　弘、高栗　勇、森田新一郎・美智子、中正憲佶・弘子、船越昭則、佐々木友子、谷口　栄・峰子、柳沢信雄・千代子、佐藤ひろみ、道場　優、野坂英三、岡田　実・江利、田辺　至、青地　巧・百合、山田良造、香川　稔、三船喜克・幸子、佐々木武司、戸津高保、船野　隆・めぐみ、永島良郎・トキ江、久保田喜代美、吉田　隆・幸子、佐々木　裕、小川祐子、榛葉貴博、佐々木政子、浅田、後藤義民、田辺英之、真壁スズ子、高橋利道、森　茂太・純子・林太郎、清水朋子、井上公雄　以上47名

［担当幹事］野坂英三、佐藤ひろみ

ウトナイ湖探鳥会に参加して

7．11．12　　柏　葉　　明

北海道新聞のガイド欄でウトナイ湖畔の「探鳥会」を知り、今期のゴルフのプレーに別れを告げ参加いたしました。当日朝刊の『きょうの天気』欄は、「胆振・日高地方は西または北西の風やや強く、晴れ時々曇。」子供の頃の遠足や運動会の時と同じような楽しみを期待しつつ、時間に余裕を持たせながらウトナイレイクホテル湖畔側の駐車場に到着しました。

集合時間が迫るにつれ、三々五々自家用車からバードウオッチャーが下車して湖畔の方に向かいます。はじめての湖畔の探鳥会に参加する不安から、年がいもなくそわそわしていると、**北海道野鳥愛護会**の腕章をつけたリーダーの、探鳥会の始まりの挨拶がありほっとしました。四方を見渡すと、参加者の皆さんは服装をはじめ双眼鏡、スコープと所持品も万全で、こちらは何となく気後れする感じがして落ち着かない様子でいると、ベテランのメンバーの方の「ハジロカイツブリが見えますよ。」の一声にスコープを覗かせていただき、一見してすぐに鳥の種類を識別されるお見事さに敬服いたしました。昼食をすませ、自由解散の後駐車場に戻り、おもむろに、自家用車の後部トランクの中から自前のスコープを取り出し、湖畔に再度でかけてウオッチングを試みたものの鳥の種類の識別までは確認不能、あらためてベテランの皆さんの超能力に脱帽、再会を楽しみに湖畔を後にしました。帰宅してから、早速、図鑑（フィールドガイド日本の野鳥）を開きチェックしてきた鳥の確認をしましたが、ちょっとやそっとで鳥の名前や特徴を覚えられそうもない高年齢。悲観しないで辛抱強く、ストレス解消と心の健康を保つためにも、リラックスのできる探鳥会に参加することにいたします。

私と野鳥との出会いは、２年前の11月、社用で日高の浦河に出張の途中、ウトナイ湖ネイチャーセンターを訪ね、１階ホールの50倍の倍率もあると思われる大型スコープ、２階ホールの20倍の倍率のスコープを覗きながら、レンジャーから「あれがアオサギ、向こうに見えるのがオオハクチョウ、こちらがハシブトガラ、ヤマガラ。」と親切な解説を受けながら観察したことに始まります。これまでは、自宅に近いということもあって、主に西岡の水源池に出かけては双眼鏡で個人プレーをしながら楽しんできました。今回の探鳥会参加を機に、この冬はできるだけベテランの皆さんのご指導を賜りながら、野鳥観察の興味が一層増大するよう積極的に参加したいものだと考えています。

〒062　札幌市豊平区月寒西１条10丁目３－４－404

［記録された鳥］ハジロカイツブリ、アオサギ、トビ、オジロワシ、チュウヒ、ハイタカ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハクガン　以上31種

鳥合わせ解散後センター横の餌台付近で♀のオオマシコを多数の参加者が観察確認しました。

［参加者］森　茂太・純子・林太郎、小堀煌治、小野盛市、柏葉　明、柳沢信雄、榛葉貴博、小川祐子、山田良造、中正憲佶・弘子、相木大嗣・孝子、戸津高保・以知子、野坂英三、富田寿一、成沢里美、井上公雄　以上20名

［担当幹事］富田寿一、野坂英三

【野幌森林公園】

平成８年２月11日（日）

雪に覆われ寒さの最も厳しいこの時期、鳥たちはどんな生活をしているのでしょう。シジュウカラ、ハシブトガラ、アカゲラ、コゲラ等のカラ・ケラ類や日本の野鳥の中で最も小さいキクイタダキ等が見られます。種類数は多くはありませんが、逞しく生きる小さな野性にも注目したいものです。歩くスキー、カンジキ等があれば申し分ありません。

集合＝午前９時　大沢口駐車場入口集合

交通＝夕鉄バス（文京通西ゆき）新さっぽろ駅バスターミナル・12番乗車口

【円山公園】平成８年３月３日（日）

冬も峠を越え日中の日差しに春を感じる頃です。早くも囀りを始める鳥もいます。地下鉄円山公園駅から徒歩３、４分という集まりやすい場所です。公園内を一周すると意外にいろいろの鳥がいるものです。アトリ、キレンジャク、ベニヒワ等に出会えたらと願っています。

集合＝午前９時　円山公園管理事務所前集合

午前中解散

交通＝地下鉄東西線　円山公園駅下車

【ウトナイ湖】平成８年３月31日（日）

湖面の氷も溶け、北の繁殖地へ向かうガン・カモ類の水鳥でにぎわいます。マガン、ヒシクイ、オナガガモの群れ、パンダの異名をもつミコアイサやホオジロガモ等いずれも美しい姿で魅了します。残氷の上にはオオワシ、オジロワシが、そして勇壮な飛翔は圧巻です。

集合＝午前９時40分　ウトナイレイクホテル湖畔側集合

交通＝道南バス（苫小牧ゆき）新千歳空港発－ウトナイレイクランド前下車

【野幌森林公園】平成８年４月14日（日）

厳しい冬を生き抜いた鳥たちは、春の訪れとともにいっせいに囀り始め、繁殖のための準備に入ります。南で冬を過ごしたウグイス、アオジ等の初鳴きが聞かれるのも、松川の池・大沢の池でオシドリ、カイツブリ等が見られるのもこの頃です。まだ雪が残っている所もあり、長靴が無難です。

集合＝午前９時　大沢口駐車場入口集合

交通＝（前掲ご参照）

【宮島沼】平成８年４月21日（日）

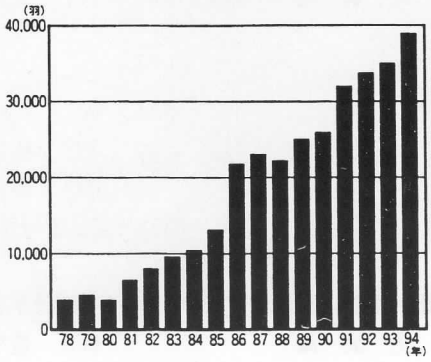
シベリア南東部カムチャツカ半島の繁殖地へ向かうマガンの、国内最後の集結地として全国的に有名な宮島沼です。近年は次第にその数を増し、３万羽を越えるようになりました。北極圏を繁殖地とするオオハクチョウも見られます。

集合＝午前10時　大富会館前集合

交通＝中央バス　岩見沢バスターミナル発（月形ゆき）大富農協前下車

■ マガンの飛来数推移（宮島沼・春季）

（草野調べ/1978年～1994年）



【野幌森林公園を歩きましょう】

平成８年４月７日（日）

集合＝午前９時　大沢口駐車場入口集合

交通＝（前掲ご参照）

★交通機関を利用される方は、各自でお確かめ下さい。

★昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

★何れの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

★探鳥会の問い合わせは（011）851－6364 柳沢

鳥民だより

◆ 会費の納入についてお願い

平成７年度分の会費および平成６年度またはそれ以前の会費未納の方は、ご面倒でも郵便振替用紙（第100号同封）により、お振り込み下さるようお願いいたします。

郵便振替口座 02710－５－18287

◆ 新年講演会・スライド映写会のお知らせ（再掲）

日　時・平成８年１月13日（土）13時30分～
場　所・札幌市女性センター会議室
　　中央区大通西19丁目　℡ 621－5177
　　地下鉄東西線西18丁目駅下車が便利です
会　費・500円
講　師・ひがし大雪博物館 学芸員（会員）川辺百樹氏
演　題・「大雪山の鳥たち」

◆ 平成８年度野鳥写真展について

詳報は「第103号」でお知らせしますが、作品出展ご希望の方はそろそろご用意下さい。

会　員　名　簿

（平成７年10月31日現在届出分）

先にお配りした会員名簿のうち、次の各項の追記・変更などをお届けします。本名簿にご転記ください。

［追　加］

佐々木　武　司	811－6397	005	南区澄川４条２丁目16－10－713
早　坂　泰　夫	894－0927	004	厚別区厚別北４条２丁目６－５
樋　口　孝　城	771－4470	001	北区拓北５条２丁目10－17
樋　口　達　郎	892－2296	004	厚別区厚別中央４条４丁目６－１－404
平　井　さち子		156	東京都世田谷区櫻３－９－12－101
吉　田　行　子	613－3427	064	中央区円山西町１丁目７－22
榛　葉　貴　博	728－1514	001	北区北20条西２丁目　サンコーポラス札幌304

［転　居］

伊　東　裕　二	383－5500	067	江別市４条５丁目５　セントラルハイム1001
鈴　木　茂　也	01468 66－7332	237	横須賀市追浜東町３－78－402
武　田　忠　義		093	網走市緑町１－２　光風荘Ａ館
赤　間　益治郎	851－8351（電話番号移動）		

［訂正・追記・削除］アンダーライン部分が当該箇所です。

井　上　公　雄		062	豊平区西岡１条７丁目１－14
井　上　則　子		062	豊平区西岡１条７丁目１－14
白　澤　昌　彦		064	中央区南17条西18丁目２－20
大　坊　幸　七		062	豊平区西岡２条５丁目８－８
武　井　修　一	092 553－8525	815	福岡市南区三宅１－７－28
夏　井　直　之		065	東区北５条東12丁目16－３
中　村　克　己	（ご逝去）		

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 2,000円　（会計年度４月より）　郵便振替 02710－５－18287

〒060　札幌市中央区北３条西11丁目加森ビル５・六階　北海道自然保護協会気付　☎（011）251－5465